

授業科目	動物と作業療法				
担当者	吉田文・木村佳友・水上言・黒川晶平・三原美歩（オムニバス）			国試出題基準	I -2, 3
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

ひとの作業の中でもひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を学ぶ。動物介在療法・身体障害者補助犬（介助犬）を中心に、健康な生活をつくり、社会参加を促進するために動物との関わりをどのように活かすことができるのかを学習する。作業療法の中で実践できるように当事者の講義や体験学習を含めて授業を展開する。

■ 到達目標

1. ひとと動物の関わる作業の分類と作業療法との関係について説明できる
2. ひとと動物の関わる作業が人の生活にどのように影響するか説明できる
3. ひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を実践するための計画が立てられる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 人と動物の関わり
- 第2回 動物リハビリテーション①（概要）
- 第3回 動物リハビリテーション②（疾患と評価）
- 第4回 動物リハビリテーション③（作業療法士の関わり）
- 第5回 動物リハビリテーション④（まとめ）
- 第6回 動物介在療法①（概要）
- 第7回 動物介在療法②（作業療法における展開例）
- 第8回 動物介在療法③（演習）
- 第9回 動物介在療法④（まとめ）
- 第10回 身体障害者補助犬①（盲導犬・聴導犬・介助犬の概要、身体障害者補助犬法）
- 第11回 身体障害者補助犬②（介助犬と作業療法）
- 第12回 身体障害者補助犬③（介助犬育成の実際、育成事業者と作業療法士の連携）
- 第13回 身体障害者補助犬④（介助犬使用者の生活、社会参加を促進するために）
- 第14回 身体障害者補助犬⑤（まとめ）
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

参加態度20%（リアクションペーパー含む）、提出物30%、最終レポート50%
出席を基本とする授業のため遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡がありやむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

* 授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書 名：特に指定しない

■ 参考図書

書名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法

著者名：高柳友子他

出版社：医歯薬出版

書名：よくわかるアニマルセラピー—動物介在療法の基礎とケーススタディ

著者名：メリー・R. パーチ

出版社：インターズー

書名：BSAVA 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法

著者名：長谷川篤彦 監修

出版社：学窓社

書名：犬のリハビリテーション

著者名：北尾貴史 他監訳

出版社：インターズー

書名：犬と猫のリハビリテーション実践テクニック

著者名：枝村一弥他 訳

出版社：インターズー

書名：介助犬を知る

著者名：高柳哲也

出版社：名古屋大学出版会

書名：介助犬を育てる少女たち—荒れた心の扉を開くドッグ・プログラム

著者名：大塚敦子

出版社：講談社

書名：介助犬僕に生きる力をくれた犬：青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月

著者名：NHK プリズンドッグ取材班

出版社：ポット出版

書名：介助犬僕に生きる力をくれた犬：青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月

著者名：NHK プリズンドッグ取材班

出版社：ポット出版

■ 留意事項

その他の参考書は授業内において随時提示する。授業内で確認するが、動物が苦手であったり、動物のアレルギー等がある学生など配慮が必要な場合は、自分から教員に必ず相談すること。それによって不利益が生じることはありません。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③⑥